講義要綱

SYLLABUS

2023年度

柔整科 ―――――――― 3 年

【専門基礎分野】

解剖学特論Ⅰ
解剖学特論Ⅱ
生理学特論Ⅰ
生理学特論Ⅱ
病理学概論Ⅱ
一般臨床医学Ⅲ
一般臨床医学Ⅳ
外科学概論Ⅱ
衛生学Ⅱ
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅱ
臨床外傷学
関係法規
柔道Ⅳ
社会保障制度

【専門分野】

柔道整復特論Ⅰ
柔道整復特論Ⅱ
画像評価学
柔整脱臼軟損実技Ⅲ
外傷学実技
柔整総合実技Ⅰ
柔整総合実技Ⅱ
柔整総合実技Ⅲ
臨床実習Ⅳ

学校法人　エイジェック学園

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学特論Ⅰ　3学年

[基本情報]

担当教員	**木原　和彦**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が、柔道整復師の国家試験の傾向に基づき必要な解剖学（概説から脈管系）において、必要な知識を修得することを目的とする科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
全国柔道整復学校協会監修教科書　解剖学第2版	

[履修の条件・留意点]

・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	人体解剖学概説；細胞および組織、到達度確認	講義
2回	人体解剖学概説；組織、発生、体表の区分、到達度確認	講義
3回	人体解剖学概説（予備）　運動器系；骨格器（総論、脊柱）	講義
4回	運動器系；骨格器（総論、脊柱）、到達度確認	講義
5回	運動器系；骨格器（上肢）、到達度確認	講義
6回	運動器系；骨格器（下肢）、到達度確認	講義
7回	運動器系；骨格器（頭蓋）	講義
8回	運動器系；骨格器の到達度確認	講義
9回	運動器系；筋系（頭頚部）、到達度確認	講義
10回	運動器系；筋系（胸部、腹部）、到達度確認	講義
11回	運動器系；筋系（背部）、到達度確認	講義
12回	運動器系；筋系（上肢）、到達度確認	講義
13回	運動器系；筋系（下肢）、到達度確認	講義
14回	脈管系；総論	講義
15回	脈管系；血管系、心臓、到達度確認	講義
16回	脈管系；動脈（頭頚部）、到達度確認	講義
17回	脈管系；動脈（上肢、胸腹部）、到達度確認	講義
18回	脈管系；動脈編（下肢、静脈総論）、到達度確認	講義
19回	脈管系；静脈系、到達度確認	講義
20回	脈管系；胎児循環、リンパ系、到達度確認	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学特論Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	**木原　和彦**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習経験のある教員が、国家試験野の傾向に基づき柔道整復師に必要な解剖学（内臓系から体表解剖）において、必要な知識を修得することを目的とする科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	**---**

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
全国柔道整復学校協会監修教科書　解剖学第2版	

[履修の条件・留意点]

・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	消化器系　（概要、口腔～食道）	講義
2回	消化器系　（胃～大腸）	講義
3回	消化器系　（肝臓、膵臓）	講義
4回	消化器系　到達度確認	講義
5回	呼吸器系　（鼻腔、喉頭）	講義
6回	呼吸器系　（気管、肺）　到達度確認	講義
7回	泌尿器系　腎臓	講義
8回	泌尿器系　尿路　到達度確認	講義
9回	生殖器系　男性	講義
10回	生殖器系　女性	講義
11回	生殖器系　到達度確認	講義
12回	内分泌器系　到達度確認	講義
13回	神経系　（神経系の基礎、中枢神経；脳）	講義
14回	神経系　（中枢神経；脳）	講義
15回	神経系　（中枢神経；脊髄、伝導路）	講義
16回	神経系　（末梢神経；脳神経）	講義
17回	神経系　（末梢神経；脊髄神経）	講義
18回	神経系　（自律神経）、到達度確認	講義
19回	感覚器系　目、外皮	講義
20回	感覚器系　聴覚、平衡器	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　人体の構造と機能

[授業科目]

生理学特論Ⅰ　3学年

[基本情報]

担当教員	**神長　まどか**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、細胞、血液、循環、呼吸、消化、栄養、体温、排泄の機能について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める．特論Ⅰでは生理学の基礎，神経，筋，感覚，体液と血液，循環，呼吸について学び，施術の際に説明できる知識を身に付ける．

[評価方法]

小テストは毎回20点満点とし，その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
生理学（全国柔道整復学校協会）改訂第３版	公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第４版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

必ず復習をすること．

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生理学の基礎（細胞，体液の区分と組成，物質の移動）	講義
2回	神経と筋肉の生理①（神経の構造，静止膜電位・活動電位，神経系の分類，興奮の	講義
3回	神経と筋肉の生理②（興奮の伝達，神経伝達物質と受容体，脳の高次機能）	講義
4回	神経と筋肉の生理③（骨格筋・心筋・平滑筋，骨格筋の収縮と弛緩）	講義
5回	神経と筋肉の生理④（骨格筋と張力の関係，内臓機能の調節）	講義
6回	運動の生理①（運動の調節，運動単位，高次運動機能）	講義
7回	運動の生理②（脊髄による反射とその調節）	講義
8回	神経と筋肉，運動の生理の小テスト　解答・解説	講義
9回	感覚の生理①（感覚の一般的な特性，特殊感覚①）	講義
10回	感覚の生理②（特殊感覚②，体性感覚①）	講義
11回	感覚の生理③（体性感覚②，内臓感覚），内分泌①（内分泌腺とホルモン）	講義
12回	感覚の生理の小テスト　解答・解説	講義
13回	内分泌②（視床下部と下垂体のホルモン）	講義
14回	内分泌③（甲状腺のホルモン，副腎皮質のホルモン）	講義
15回	内分泌④（副腎髄質のホルモン，膵臓のホルモン）	講義
16回	生殖①（性分化，男性生殖器，男性ホルモン）	講義
17回	生殖②（女性生殖器，女性ホルモン，妊娠と分娩），骨の生理①（骨の構造①）	講義
18回	骨の生理②（骨の構造②，骨の成長）	講義
19回	内分泌と生殖と骨の生理の小テスト　解答・解説	講義
20回	全体のまとめと解説	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　人体の構造と機能

[授業科目]

生理学特論Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	**神長　まどか**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、内分泌、神経、筋肉、感覚器の機能について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	**---**

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める．特論Ⅱでは消化と吸収，栄養と代謝，体温とその調節，尿の生成と排泄，内分泌，生殖，骨の生理学について学び、施術の際に説明でき、国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
生理学（全国柔道整復学校協会）改訂第３版	公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第４版』，南江堂.

[履修の条件・留意点]

必ず復習をすること．学内試験や国家試験の過去問等，問題を解く機会が増えてきますが，やりっぱなしでは意味がないので，しっかりと復習してください．その積み重ねが国家試験合格へと繋がります．

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	血液①（血液の組成と成分，止血）	講義
2回	血液②（免疫，血液型）	講義
3回	循環①（心臓，血管，リンパ系）	講義
4回	循環②（循環の調節）	講義
5回	血液・循環の小テスト　解答・解説	講義
6回	呼吸の生理①（呼吸器系の構造，換気）	講義
7回	呼吸の生理②（酸素の運搬・二酸化炭素運搬，呼吸の調節）	講義
8回	尿の生成と排泄①（腎臓の構造と機能，尿の生成，腎血流量）	講義
9回	尿の生成と排泄②（排尿，体液の調節）	講義
10回	呼吸の生理と尿の生成と排泄の小テスト　解答・解説	講義
11回	消化と吸収①（消化器系の構成とはたらき，食物の消化と吸収①）	講義
12回	消化と吸収②（食物の消化と吸収②，各栄養との消化と吸収）	講義
13回	栄養と代謝①（生体に必要な栄養素，エネルギー代謝，栄養素の代謝）	講義
14回	栄養と代謝②（食物と栄養），体温とその調節①（体温，熱産生，熱放散）	講義
15回	体温とその調節②（体温調節，気候順化，発熱とうつ熱）	講義
16回	消化と吸収，栄養と代謝，体温とその調節の小テスト　解答・解説	講義
17回	高齢者の生理学的特徴・変化　発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	講義
18回	生理学の基礎，神経の生理，筋の生理，運動の生理，感覚の生理	講義
19回	内分泌，骨の生理，生殖，血液，循環	講義
20回	呼吸の生理，尿の生成と排泄，消化と吸収，栄養と代謝，体温とその調節	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　疾病と傷害

[授業科目]

病理学概論 II　　3学年

[基本情報]

担当教員	**最上　真理子**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	臨床経験を積んだ医師が、疾病や老化の病理学的変化について形態的側面から理解を深めることを指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

疾患の成り立ちを病因と形態学的観点から理解する。身体機能の低下や成因を解析し、機能の回復を促進するための知識を習得する。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
病理学概論（医歯薬出版）	

[履修の条件・留意点]

遅刻と私語をしないこと。机上に食物を置かないこと。授業中にレポートを作成して提出すること。返却されたレポートは配布資料と共にファイルに綴じて保存すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生体防御機構と免疫、自然免疫、獲得免疫	講義
2回	液性免疫、細胞性免疫、サイトカイン	講義
3回	免疫不全	講義
4回	自己免疫疾患	講義
5回	アレルギーの分類	講義
6回	アレルギー性疾患	講義
7回	腫瘍の定義、腫瘍の細胞生物学	講義
8回	腫瘍の発育段階、発癌のメカニズム	講義
9回	腫瘍の分類	講義
10回	主要な癌と肉腫	講義
11回	先天異常	講義
12回	染色体異常	講義
13回	遺伝子異常	講義
14回	栄養障害	講義
15回	感染症（細菌）	講義
16回	感染症（ウイルス）	講義
17回	損傷	講義
18回	運動器の病理	講義
19回	問題演習①、解説（生体防御と免疫～腫瘍の分類）	講義
20回	問題演習②、解説（主要な癌と肉腫～運動器の病理）	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅲ　3学年

[基本情報]

担当教員	**初鹿　達朗**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	医療従事者が最低限学習しておくべき基本的な疾患の概念・症状・治療法などを、臨床経験のある医師が指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。具体的には代謝疾患、内分泌疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、感染症、膠原病などを学び、臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
一般臨床医学　改訂第３版　（医歯薬出版株式会社）	

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	D 糖尿病、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症	講義
2回	E 内分泌疾患総論、下垂体疾患	講義
3回	E 甲状腺疾患、副腎疾患	講義
4回	F 血液・造血器疾患総論、白血球系疾患、血小板および凝固系疾患	講義
5回	F 赤血球系疾患	講義
6回	G 腎・尿路疾患総論、糸球体疾患	講義
7回	G ネフローゼ症候群、泌尿器疾患	講義
8回	H 神経疾患総論①	講義
9回	H 神経疾患総論②	講義
10回	H 神経変性疾患	講義
11回	H 脱髄性疾患、筋疾患	講義
12回	H 脳血管障害	講義
13回	I 感染症総論、総論、麻疹、風疹、水痘、猩紅熱	講義
14回	I 結核、後天性免疫不全症候群、マラリア、梅毒	講義
15回	J リウマチ・膠原病・アレルギー総論、関節リウマチ、強直性脊椎炎	講義
16回	J 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎	講義
17回	J ベーチェット病、結節性多発動脈炎、リウマチ熱	講義
18回	前期の復習（代謝疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患）	講義
19回	前期の復習（腎・尿路疾患、神経疾患）	講義
20回	前期の復習（感染症、リウマチ・膠原病・アレルギー）	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅳ　3学年

[基本情報]

担当教員	**初鹿　達朗**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	医療従事者が最低限学習しておくべき基本的な疾患の概念・症状・治療法などを、臨床経験のある医師が指導する科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	**---**

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。また、今まで学んだ内容を復習し、知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
一般臨床医学　改訂第３版　（医歯薬出版株式会社）	

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	A 肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、肺血栓塞栓症、気胸	講義
2回	B 心不全、冠動脈疾患、弁膜症	講義
3回	B 先天性心疾患、血管疾患、不整脈	講義
4回	C 消化管疾患	講義
5回	C 肝胆膵疾患	講義
6回	D 糖尿病、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症	講義
7回	E 下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患	講義
8回	F 白血球系疾患、血小板および凝固系疾患、赤血球系疾患	講義
9回	G 糸球体疾患、ネフローゼ症候群、泌尿器疾患	講義
10回	H 神経疾患総論	講義
11回	H 変性疾患、脱髄性疾患	講義
12回	H 筋疾患、脳血管障害	講義
13回	I 感染症総論、麻疹、風疹、水痘、猩紅熱、結核、後天性免疫不全症候群、梅毒	講義
14回	H 古典的膠原病	講義
15回	問題形式演習①、解説（診察総論など）	講義
16回	問題形式演習②、解説（呼吸器疾患～心疾患など）	講義
17回	問題形式演習③、解説（消化器系疾患～代謝性疾患など）	講義
18回	問題形式演習④、解説（内分泌疾患など）	講義
19回	問題形式演習⑤、解説（泌尿器疾患～神経疾患など）	講義
20回	問題形式演習⑥、解説（感染症～膠原病など）	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　疾病と傷害

[授業科目]

外科学概論Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	**宮川　哲平　益子　隆太郎**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	臨床経験のある医師が、外科学の基礎となる総論事項と、臨床現場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患についての知識を身に着けるよう指導する科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	**---**

[授業目標]

柔道整復師は，主に整形外科学の学問との関わりが強いと思われる。整形外科学は人体の骨・関節・筋肉等の運動器系を診療研究する「外科学」の一分野である。その「外科学」の基礎となる総論的な事項とともに，日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患について知識等を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
外科学概論	

[履修の条件・留意点]

国家試験で問われることが多いところを中心に、授業中に説明します。下記の教科書に準じて授業を進めます。他科目を含め覚えることが多いので、外科学概論については授業中になるべく頭に入れるようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション・損傷	講義
2回	炎症と外科感染症	講義
3回	腫瘍	講義
4回	ショック・心肺蘇生法	講義
5回	輸血・輸液	講義
6回	消毒と滅菌	講義
7回	手術・麻酔	講義
8回	移植と免疫	講義
9回	出血と止血	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科疾患	講義
12回	甲状腺・頚部疾患	講義
13回	胸壁・呼吸器疾患	講義
14回	心臓・脈管疾患	講義
15回	乳腺疾患	講義
16回	腹部外科疾患	講義
17回	総復習①	講義
18回	総復習②	講義
19回	総復習③	講義
20回	総復習④	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　疾病と傷害

[授業科目]

衛生学Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	最上　紀美子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	博士号を持つ薬剤師が、公衆衛生活動の講演の経験を活かし、公衆衛生活動の基礎となる知識について理解を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

地域医療を担う存在である柔道整復師は、地域の公衆衛生活動の推進者となることが期待されている。
本講義では柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学の知識を学習する。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
衛生学・公衆衛生学改訂第6版	

[履修の条件・留意点]

遅刻、欠席の取り扱いについては学則どおりとします。
授業で配布したプリントは保存するようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生活環境・食品衛生活動	上水・下水、住居・衣服と健康	講義
2回	生活環境・食品衛生活動	食品衛生、廃棄物	講義
3回	母子保健	母子保健、母子保健指標、母子保健対策	講義
4回	学校保健	学齢期の健康状況、学校における保健活動	講義
5回	産業保健	職業病、労働災害、産業保健対策	講義
6回	成人・高齢者保健	成人・高齢者の健康状況、生活習慣病	講義
7回	成人・高齢者保健	高齢者保健・福祉対策	講義
8回	精神保健	精神の病気、精神障害者の対策	講義
9回	地域保健と国際保健	地域保健活動	講義
10回	地域保健と国際保健	国際保健組織	講義
11回	衛生行政と保健医療の制度	保健所の業務、医療・福祉制度	講義
12回	医療の倫理と安全の確保	医療の倫理、医療安全の確保	講義
13回	疫学	疫学指標、疫学研究の種類	講義
14回	衛生学Ⅰ復習	健康の定義、衛生統計、疾病予防	講義
15回	衛生学Ⅰ復習	感染症、感染症対策	講義
16回	衛生学Ⅰ復習	消毒法一般、種類と方法	講義
17回	衛生学Ⅰ復習	環境と適応、環境と健康、公害	講義
18回	総復習	生活環境・食品衛生活動、母子保健、学校保健	講義
19回	総復習	産業保健、成人・高齢者保健、精神保健、地域保健と国際保健	講義
20回	総復習	衛生行政と保健医療の制度、医療の倫理と安全の確保、疫学	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　疾病と傷害

[授業科目]

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	**田中　順一郎☒**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	専門学校で指導経験のある教員が、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて理解を深めるために、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの概念および関連職種、疾患別ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、関連法について指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

患者がもつ障害に対する理解を深めると同時に、リハビリテーションの基礎について学ぶ。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
公益社団法人　全国柔道整復学校協会 監修：リハビリテーション医学　改訂第4版	授業毎にプリントを配布する

[履修の条件・留意点]

復習を欠かさないこと。教科書を読んでくることが望ましい。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中、携帯電話の電源はオフにし、飲食物は机上に置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーション障害学（摂食嚥下障害）	講義
2回	リハビリテーション障害学（高次脳機能障害、失語症、失行症、失認症）	講義
3回	リハビリテーション障害学（高次脳機能障害、記憶障害）（ライフサイクル）	講義
4回	リハビリテーション治療学（障害の受容、廃用症候群）	講義
5回	リハビリテーション治療学（関節拘縮、リンパ浮腫）	講義
6回	リハビリテーション治療学（筋力強化）	講義
7回	リハビリテーション治療学（中枢性麻痺と痙縮、慢性疼痛、全身運動）	講義
8回	リハビリテーション治療学（リスク管理）、これまでの範囲について問題演習	講義
9回	リハビリテーションの関連職種	講義
10回	理学療法	講義
11回	物理療法	講義
12回	作業療法	講義
13回	言語聴覚療法	講義
14回	補装具・義肢・自助具	講義
15回	高齢者のリハビリテーション	講義
16回	パーキンソン病、脳卒中（分類）	講義
17回	脳卒中（障害、リハビリテーション）	講義
18回	リハビリテーションと福祉（介護保険など）	講義
19回	機能訓練指導について	講義
20回	問題演習（摂食嚥下障害～機能訓練指導）、解答・解説	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　柔道整復術の適応

[授業科目]

臨床外傷学　3学年

[基本情報]

担当教員	**最上　真理子**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	臨床経験を積んだ医師が、医療者に求められる臨床現場での外傷学の基本を理解するよう指導する科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	**---**

[授業目標]

柔道整復師の業務範囲か否か、適切な判断ができる知識を身に付ける。柔道整復術の限界はどこまでかを理解し、業務範囲外のものに対しても、適切な対応ができる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
整形外科学（改正4版）、医療の中の柔道整復	標準整形外科学（第14版）

[履修の条件・留意点]

1） 特別の理由がない遅刻は出席と認めない。 2） 講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。 3）学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	疾患別各論　⑥神経麻痺と絞扼性神経障害	講義
2回	疾患別各論　⑦腕神経叢麻痺・分娩麻痺、全身性神経・筋疾患⑧脊髄腫瘍、脊髄損傷	講義
3回	身体部位別各論　①頚部　②胸部	講義
4回	身体部位別各論　③腰部	講義
5回	身体部位別各論　④肩関節・肩甲帯	講義
6回	身体部位別各論　⑤上腕・肘関節	講義
7回	身体部位別各論　⑥前腕・手関節	講義
8回	身体部位別各論　⑦手・手指	講義
9回	身体部位別各論　⑧骨盤・股関節	講義
10回	身体部位別各論　⑨大腿・膝関節	講義
11回	身体部位別各論　⑩下腿・足関節	講義
12回	身体部位別各論　⑪足・足趾	講義
13回	1　柔道整復術の適否を考える　2　損傷に類似した症状を示す疾患①	講義
14回	2　損傷に類似した症状を示す疾患②	講義
15回	3　血流障害を伴う損傷　4　末梢神経損傷を伴う損傷	講義
16回	5　脱臼骨折　6　外出血を伴う損傷	講義
17回	7　病的骨折及び脱臼　8　意識障害を伴う損傷	講義
18回	9　脊髄症状のある損傷　10　呼吸運動障害を伴う損傷	講義
19回	11　内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
20回	12　高エネルギー外傷	講義

2023年度　[　分野　]　専門基礎　/　保健医療福祉と柔道整復の理念

[授業科目]

関係法規　3学年

[基本情報]

担当教員	**西尾　悠介**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	臨床経験をもつ柔道整復師が、柔道整復師等の法律を学ぶ科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

柔道整復師として業務に従事するうえで必要な法令を理解する。柔道整復師法、及びその他の医療福祉法規を学び、法令の中で適切な施術ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の１/３以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験を認めない。
単位認定試験において60点以上の場合を合格とする。

[教科書]	[参考書]
関係法規　2022年版　医歯薬出版	

[履修の条件・留意点]

・各講義の復習をしっかり行い、各講義の内容を理解しておくこと。
・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
・パソコンやタブレット等の使用は許可を得ることで使用可能とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	序論：法の意義、インフォームドコンセント、医療過誤とリスクマネジメント	講義
2回	柔道整復師法とその関連内容：第一章　総則	講義
3回	第二章：免許	講義
4回	第三章：柔道整復師国家試験	講義
5回	第四章：業務	講義
6回	第五章：施術所	講義
7回	第六章：雑則	講義
8回	第七章：罰則	講義
9回	第八章：指定登録機関及び指定試験期間　第九章：附則	講義
10回	医療従事者の関係法規	講義
11回	医療法	講義
12回	社会福祉関係法規ｐ90～	講義
13回	社会福祉関係法規ｐ95～	講義
14回	その他関係法規	講義
15回	個人情報保護法	講義
16回	序論、柔道整復師法、免許、柔道整復師国家試験の復習	講義
17回	柔道整復師国家試験、業務、施術所、雑則、罰則の復習	講義
18回	罰則、指定登録機関及び指定試験機関、附則、医療従事者の関係法規、医療法、社会福祉関係法規の復習	講義
19回	社会福祉関係法規、その他関係法規、個人情報保護法第の復習	講義
20回	総まとめ、解説	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　保健医療福祉と柔道整復の理念

[授業科目]

柔道Ⅳ　3学年

[基本情報]

担当教員	**増地　克之**	単位数	**1**	時間数	**40**
実務/資格	体育系大学で柔道コーチングを担当している教員が、認定実技審査に向けて柔道の基本動作や投の形を指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	---	**実習**

[授業目標]

柔道を通じて、精力善用、自他共栄の精神を身に付ける。柔道の礼儀作法、投げの型、受け身を学び、人に対する尊敬と謙虚さを身に付け、社会へ貢献する考え方を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の１/３以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形) 小俣幸嗣著　大泉書店	

[履修の条件・留意点]

１０月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	前方回転受身、投の形（始めの動作、終わりの動作、支釣込足）								実習
2回	投の形、支釣込足								実習
3回	投の形　釣込腰								実習
4回	投の形　釣込腰								実習
5回	投の形　払腰								実習
6回	投の形　払腰								実習
7回	投の形　浮落								実習
8回	投の形　浮落								実習
9回	投の形　背負投								実習
10回	投の形　背負投								実習
11回	投の形　浮腰								実習
12回	投の形　浮腰								実習
13回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定								実習
14回	投の形　送足払、約束乱取								実習
15回	投の形　送足払、約束乱取								実習
16回	投の形　内股、約束乱取								実習
17回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定								実習
18回	投の形　反復練習　約束乱取								実習
19回	まとめ、解説								実習
20回	投の形　肩車								実習

2023年度　　[　分野　]　　専門基礎　　/　　社会保障制度

[授業科目]

社会保障制度　3学年

[基本情報]

担当教員	**西尾　悠介**	単位数	**2**	時間数	**30**
実務/資格	臨床経験をもつ柔道整復師が、社会保障制度と療養費の仕組みについて指導する科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

社会保障制度について理解する。保健を扱う資格として、改正が行われる保障制度の最新の内容を理解し、適切に制度を利用できる知識を身に付ける。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）	

[履修の条件・留意点]

・各講義の復習をしっかり行い、各講義の内容を理解しておくこと。
・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
・パソコンやタブレット等の使用は許可を得ることで使用可能とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、社会保障の３つの機能、あるべき社会と今後の社会保障	講義
2回	公的年金の意義、公的年金制度の仕組み、介護保険の意義と仕組み、社会福祉・公的扶助・公衆衛生の意義と仕組み	講義
3回	医療保険の目的と意義	講義
4回	保険診療の概要	講義
5回	医療保険財政の現状と課題	講義
6回	診療報酬制度	講義
7回	療養費とは	講義
8回	柔道整復療養費	講義
9回	柔道整復療養費の推移	講義
10回	療養費の算定	講義
11回	療養費請求のケーススタディ①	講義
12回	療養費請求のケーススタディ②	講義
13回	療養費請求のケーススタディ③	講義
14回	総復習（社会保障制度、医療保険制度）	講義
15回	まとめ、解説	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　基礎柔道整復学

[授業科目]

柔道整復特論Ⅰ　3学年

[基本情報]

担当教員	**須田　正志**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	臨床経験、専門学校での指導経験のある教員が、上肢、下肢、体幹部の骨折について、臨床経験を交えながら、より深い知識を身に着けるよう指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の各骨折の特徴、基本的な治療方針などについて学び、医師との連携を考慮した能力を養う。機能解剖、画像読影（上肢、下肢、体幹）する能力を養う。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院

[履修の条件・留意点]

授業で必要な資料は配布するも教科書を復読する事。練習問題、過去の国家試験問題を実施し、理解度・要望に応じ変更の可能性あり。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	下腿骨近位端部骨折：脛骨顆部骨折(発生機序・症状他)、脛骨顆間隆起骨折(分類・発生機序他)	講義
2回	下腿骨近位端部骨折：脛骨粗面骨折(分類・発生機序他)、腓骨単独骨折(発生機序他)	講義
3回	下腿骨骨幹部骨折：脛骨単独骨折および脛腓両骨骨折(発生機序、症状他)、腓骨骨幹部単独骨折、疲労骨折	講義
4回	下腿骨果部骨折：果部骨折(分類・症状他)	講義
5回	足根骨骨折：距骨骨折(分類、発生機序、症状他)、踵骨骨折(分類、発生機序、症状他)、舟状骨骨折	講義
6回	中足骨骨折：分類・発生機序・症状　趾骨骨折：発生機序・症状他	講義
7回	下肢骨折：問題演習(下腿骨近位端部骨折から趾骨骨折)	講義
8回	頭部骨折：頭蓋骨骨折(分類・症状他)、顔面頭蓋骨折(概説、症状、合併症他)	講義
9回	脊柱骨折：頸椎骨折(分類・概説他)、胸椎骨折(概説、発生機序、症状他)、腰椎骨折	講義
10回	体幹骨折：肋骨骨折(発生機序・症状・合併症他)、胸骨骨折(概説・症状・合併症他)	講義
11回	頭部体幹骨折：問題演習	講義
12回	鎖骨骨折：発生機序・症状・合併症他	講義
13回	鎖骨骨折：整復法・固定法・後遺症他	講義
14回	肩甲骨骨折：分類・発生機序・症状・治療法他	講義
15回	上腕骨外科頸骨折：発生機序・症状・合併症・鑑別診断・整復法・固定法他	講義
16回	上腕骨近位端部骨折：骨頭骨折(症状・予後他)、解剖頸骨折(症状・予後)、大・小結節骨折(発生機序他)	講義
17回	上腕骨骨幹部骨折：発生機序・症状・合併症・転位・後遺症他	講義
18回	上腕骨顆上骨折：特徴・発生機序・骨折線・骨片転位・症状・後遺症他	講義
19回	上腕骨遠位端部骨折：上腕骨外顆骨折(特徴・発生機序・症状・後遺症他)、上腕骨内側上顆骨折(発生機序)	講義
20回	総まとめ、解説	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　基礎柔道整復学

[授業科目]

柔道整復特論Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	**須田　正志**	単位数	**2**	時間数	**40**
実務/資格	臨床経験、専門学校での指導経験のある教員が、総論、骨折、脱臼、軟損全ての範囲を指導する科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**講義**	**---**

[授業目標]

1，2年次に学んだ総論、骨折についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは総論と全骨折、軟部組織損傷を実際の画像を用いて学び、より臨床的な知識を深める。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院

[履修の条件・留意点]

授業で必要な資料を配布する。教科書を必ず持参する事。本講座の活用で春の栄冠をぜひ勝ち取ってください！授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	前腕骨近位端部骨折：橈骨近位端部骨折(発生機序・症状・合併症他)	講義
2回	前腕骨近位端部骨折：肘頭骨折(発生機序・骨折線・骨片転位・症状・合併症他)	講義
3回	前腕骨骨幹部骨折：橈骨骨幹部骨折(発生機序・症状他)、ガレアジ骨折(概説・後遺症他)	講義
4回	前腕骨骨幹部骨折：尺骨骨幹部骨折(発生機序・症状他)、モンテギア骨折(分類・合併症他)	講義
5回	前腕骨遠位端部骨折：コーレス骨折(発生機序・症状・合併症・整復法・固定法他)	講義
6回	前腕骨遠位端部骨折：スミス骨折(発生機序・症状他)、バートン骨折、ショウファー骨折他	講義
7回	手根骨骨折：舟状骨骨折(分類・症状・合併症他)、三角骨骨折、有鈎骨骨折、豆状骨骨折他	講義
8回	中手骨骨折：頭部骨折、頸部骨折(発生機序・症状・固定法他)、骨幹部骨折他	講義
9回	上肢骨折：問題演習(前腕骨近位端部骨折から指骨骨折)	講義
10回	骨損傷の分類：性状・程度・方向・数・働いた部位・外力の働き方による分類他	講義
11回	骨損傷の症状：局所症状(一般外傷症状・固有症状)、全身症状(ショック・発熱)	講義
12回	骨損傷の合併症：併発症・続発症・後遺症	講義
13回	小児・高齢者骨折の特徴：特徴、診断上の注意・治療上の注意・治療の目標他	講義
14回	骨損傷の癒合日数、骨折の治癒経過	講義
15回	関節構成組織損傷：軟骨組織・関節包他	講義
16回	脱臼：定義と概説・発生頻度・分類・症状・合併症・整復障害他	講義
17回	筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の損傷：程度による分類	講義
18回	診察：注意点・手順・時期による分類・計画の作成・施術録の扱いと記載	講義
19回	整復法：牽引直圧・屈曲整復法、固定法：目的・種類・範囲・期間　他	講義
20回	後療法：手技・運動・物理療法、指導管理、外傷予防	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　臨床柔道整復学

[授業科目]

画像評価学　3学年

[基本情報]

担当教員	**蓮本　宏一**	単位数	**2**	時間数	**30**
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が、外傷の基本的な知識、症状について指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	**講義**	---

[授業目標]

種々の画像を読影できる能力を身に付ける。レントゲンやMRIなどの画像のみかたを学ぶ。また、柔道整復師が使用できる超音波観察装置の使用方法を理解し、施術の補助として活用できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
「施術の適応と医用画像の理解」　南江堂	骨・関節X線写真の撮り方見かた

[履修の条件・留意点]

授業で必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	医用画像の理解（X線写真　CT　MRI　超音波）	講義
2回	国家試験の画像出題傾向の分析	講義
3回	肩関節の撮影法と評価　1	講義
4回	肩関節の撮影法と評価　2　超音波観察装置使用	講義
5回	肘関節の撮影法と評価　1	講義
6回	肘関節の撮影法と評価　2　超音波観察装置使用	講義
7回	手関節の撮影法と評価　1	講義
8回	手関節の撮影法と評価　2　超音波観察装置使用	講義
9回	股関節の撮影法と評価	講義
10回	膝関節の撮影法と評価　1	講義
11回	膝関節の撮影法と評価　2　超音波観察装置使用	講義
12回	足関節の撮影法と評価　1	講義
13回	足関節の撮影法と評価　2　超音波観察装置使用	講義
14回	体幹の撮影法と評価、まとめ	講義
15回	まとめ、解説（単位試験）	講義

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　柔道整復実技

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技Ⅲ　3学年

[基本情報]

担当教員	**森澤　隆弘**	単位数	**1**	時間数	**40**
実務/資格	整形外科で臨床経験をつみ、整骨院を開業している柔道整復師の専任教員が、脱臼、軟部組織損傷に対する臨床的な技術を身につけるよう指導する科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	---	**実習**

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢、体幹の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢、体幹の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術をみにつけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

前期末試験成績、学則に沿った出席、遅刻、早退日数と授業態度

[教科書]	[参考書]
柔道整復学理論編、実技編	標準整形外科、解剖学

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	顎関節脱臼、顎関節症の整復法と固定法	実習
2回	鎖骨脱臼(肩鎖関節、胸鎖関節)　の整復法と固定法	実習
3回	肩関節脱臼①前方脱臼の鑑別、整復法・固定法	実習
4回	肩関節脱臼②後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼の整復法・固定法	実習
5回	肩関節軟損①腱板断裂、上腕二頭筋損傷、ベネット損傷、スラップ損傷、の検査法・治療法	実習
6回	肩関節軟損②インピンジメント症候群、リトルリーガー肩、肩関節不安定症、末梢神経障害、肩関節周囲炎の治療法	実習
7回	肘関節脱臼（後方脱臼）の鑑別・整復法・固定法	実習
8回	肘関節～前腕部軟損①靭帯損傷・野球肘の検査法・治療法	実習
9回	肘関節～前腕部軟損②神経麻痺の理論と検査法・治療法	実習
10回	手関節～指関節脱臼の整復法	実習
11回	手関節～指関節脱臼の固定法	実習
12回	手関節～指関節軟損（TFCC損傷、ド・ケルバン病、手根管症候群）の検査法・治療法	実習
13回	手関節～指関節軟損②（ギヨン管症候群、キーンベック病、マーデルング変形、マレットフィンガー）の検査法・治療法処置法	実習
14回	手関節～指関節軟損（指の靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指、手指の変形）の検査法・処置法治療法	実習
15回	手部の脱臼と軟損の固定法	実習
16回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復①	実習
17回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復②	実習
18回	腱板損傷、二頭筋長頭腱損傷診察、施術	実習
19回	大腿筋損傷、膝関節捻挫、腓腹筋損傷、足関節捻挫診察、施術	実習
20回	問題演習（顎関節～足関節捻挫まで）、解説	実習

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　柔道整復実技

[授業科目]

外傷学実技　3学年

[基本情報]

担当教員	**佐々木　玲衣**	単位数	**1**	時間数	**30**
実務/資格	柔道整復師として臨床を積んだ専門学校の教員が、クリニックでの実習調整を行い、医師、理学療法士、看護師との連携と対応を学び、幅広い患者に対応できる知識を身に着けてもらう科目である。				
開講学期	**前期**	---	授業形態	---	**実習**

[授業目標]

高齢者、競技者の外傷の予防と、外傷を起こした際の処置能力を身に付ける。高齢者、競技者の生理学的特徴を理解したうえで、どのような予防が効果的かを理解し、適切に説明できる能力を身に付けることを目標とする。包帯

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の１/３以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
競技者の外傷予防	

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞄の中にしまうこと。
実技では白衣着用

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	競技者の外傷予防(外傷発生要因)(外傷予防対策)	実習
2回	競技者の外傷予防のための実技（評価と測定）	実習
3回	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①セルフケア・アイシング	実習
4回	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②ストレッチ・テーピング	実習
5回	成長期の外傷予防・高齢者の外傷予防	実習
6回	包帯	実習
7回	包帯	実習
8回	競技者の外傷予防	実習
9回	テニスボールを使ったセルフケア	実習
10回	セルフケア（筋肉の走行を意識してマッサージ）	実習
11回	テーピング（足関節・膝関節）	実習
12回	テーピング（上肢）	実習
13回	ストレッチ（上肢）	実習
14回	ストレッチ（下肢）	実習
15回	まとめ、解説	実習

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　　柔道整復実技

[授業科目]

柔整総合実技Ⅰ　3学年

[基本情報]

担当教員	①西尾　悠介②西田　朋美		単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、骨折、脱臼、軟部組織損傷について、患者評価から整復、固定、検査法まで対応できるよう指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

1，2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。特に認定実技審査項目を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する．小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが，公欠以外の欠席の場合は0点とし，平均点に含む．単位認定試験は80点満点とし，小テストの平均点（20点満点）と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する．試験範囲はこの授業で学習した範囲とする．

[教科書]	[参考書]
柔道整復学理論編　改訂版第5.6版 柔道整復学実技編　改訂第2版	

[履修の条件・留意点]

受講時は必ず白衣を着用すること。
確実にできる・覚えるまで反復して学習する事。（１回やった＝確実にできる！ではない。）

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	必修問題出題要綱☑　/ 肩腱板損傷	実技
2回	上腕二頭筋腱損傷	実技
3回	肩鎖関節脱臼理論	実技
4回	肩関節脱臼理論	実技
5回	肘関節脱臼理論	実技
6回	肘内障理論	実技
7回	大腿部損傷理論	実技
8回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実技
9回	鎖骨骨折の整復と固定	実技
10回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実技
11回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実技
12回	上腕骨外科頚外転型骨折の整復	実技
13回	コーレス骨折の整復・固定	実技
14回	下腿三頭筋損傷・アキレス腱断裂	実技
15回	第5中手骨頚部骨折の固定、下腿骨骨幹部骨折の固定	実技
16回	足関節捻挫	実技
17回	下腿骨骨幹部骨折の固定、肋骨骨折の固定	実技
18回	総まとめ　検査	実技
19回	総まとめ　固定	実技
20回	総まとめ・解説	実技

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　柔道整復実技

[授業科目]

柔整総合実技Ⅱ　3学年

[基本情報]

担当教員	①増地　克之②西田　朋美	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、脱臼、骨折などの基礎的知識の復習から臨床的な応用まで深く指導し、また、柔道の基本的動作と型も併せて指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

1，2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。柔道、認定実技審査項目の学習と、総論を理解した上での骨折脱臼の臨床的施術方法を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の１/３以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形) 小俣幸嗣著　大泉書店	

[履修の条件・留意点]

１０月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	投の形　内股、約束乱取	実習
2回	投の形　内股、約束乱取	実習
3回	投の形　肩車	実習
4回	投の形　反復練習　約束乱取	実習
5回	投の形　反復練習　約束乱取	実習
6回	プレ認定実技審査	実習
7回	投の形　反復練習　約束乱取	実習
8回	投の形　反復練習　約束乱取	実習
9回	投の形　反復練習　約束乱取	実習
10回	まとめ、解説	実習
11回	肩鎖関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
12回	肩関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
13回	肘関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
14回	上腕骨外科頚骨折の理論と整復実技	実習
15回	橈骨遠位端部骨折の理論と整復実技	実習
16回	顎関節脱臼の理論と整復実技	実習
17回	上肢脱臼の総復習	実習
18回	下肢脱臼の総復習	実習
19回	上下肢の総復習	実習
20回	上下肢の総復習	実習

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　柔道整復実技

[授業科目]

柔整総合実技Ⅲ　3学年

[基本情報]

担当教員	**森澤　隆弘**	単位数	**1**	時間数	**40**
実務/資格	整形外科で臨床経験をつみ、整骨院を開業している柔道整復師の専任教員が、脱臼、軟部組織損傷に対する臨床的な知識を身につけるよう指導する科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	---	**実習**

[授業目標]

1，2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。関節や筋などの損傷を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

出席日数、後期期末試験(卒業試験)成績、授業態度

[教科書]	[参考書]
柔道整復学理論編、実技編	標準整形外科、解剖学、包帯固定学

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	外傷性股関節脱臼、発育性脱臼①診察、施術	実習
2回	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼解説、施術	実習
3回	実技認定対策授業	実習
4回	膝関節捻挫（前十字靱帯、側腹靱帯、半月損傷）	実習
5回	膝関節捻挫（ランナー膝、ジャンパー膝、スポーツ障害、成長障害）	実習
6回	下腿部損傷（コンパートメント症候群、シンスプリント、疲労骨折鑑別）	実習
7回	下腿部損傷、アキレス腱断裂	実習
8回	足関節捻挫（距腿関節靱帯損傷、腓骨筋腱脱臼）	実習
9回	足関節捻挫（ショパール関節、リスフラン関節捻挫）、足部成長障害	実習
10回	足根管症候群、フットボーラーズアンクル、外脛骨、三角骨障害）	実習
11回	足関節部～前足部脱臼（距腿関節）	実習
12回	足関節部～前足部脱臼（ショパール関節、リスフラン関節、足指関節）	実習
13回	体幹疾患①（脊椎部脱臼）	実習
14回	体幹疾患②（頸椎、胸椎、腰椎部疾患）	実習
15回	下腿～足関節部の外傷の復習	実習
16回	問題演習（外傷性股関節脱臼、発育性脱臼）、解説	実習
17回	問題演習（膝関節捻挫、下腿部損傷）解説	実習
18回	問題演習（足関節捻挫、足関節の障害）、解説	実習
19回	問題演習（足関節・足部）、解説	実習
20回	問題演習（頸椎～腰椎部の疾患）、解説	実習

2023年度　　[　分野　]　　専門　　/　臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅳ　3学年

[基本情報]

担当教員	**西尾　悠介**	単位数	**1**	時間数	**45**
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、整骨院で患者への施術を行い、実際の臨床現場での対応を身につけてもうら科目である。				
開講学期	**前期**	**後期**	授業形態	**---**	**実習**

[授業目標]

主訴に対し患部だけではなく、全身状態を観察し、
問診・視診・触診・検査法を手順よくおこなえるようにする。
患者さんの痛みに寄り添えるような柔道整復師になれるように基本を１から学ぶ。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、最終評価と臨床実習振り返りシートの記入をもって判定する。
なお、例外を除いて、欠席は認めない。

[教科書]	[参考書]
柔道整復理論・実技	

[履修の条件・留意点]

付属整骨院にて実習を行うので、身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリー)には特に注意すること。医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。下記の実施内容についても練習するので、事前に復習をしておくこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	千葉県武道館、講道館、日本武道館、東京武道館、駒沢陸上競技場、天台スポーツセンター、江戸川陸上競技場などで実施	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習